

平成二十二年度A〇一期入学試験

日本語問題

千葉商科大学商経学部

次の文章を読んで、別紙解答用紙の問いに答えなさい。

森(c)に関わる仕事をしている人には、子ども時代に森と親密だった人が多い。森が遊び場だったという人たち。あるいは、にちじょう(c)てきにたきぎ拾(まき)いをした、薪割りをした、山菜採りやきのこ狩り、炭焼きの手伝いをした、という年配(A)の方に多い、営み(c)経験層。それでいくと、私は異質である。子どものとき、森とは無縁(c)だったからだ。営みはもちろんのこと、森の中で遊ぶという経験もしていない。

田畑や原野で遊んだ経験はけっこうある。新興住宅地で育ったので、その後どんどん変貌していったものの、田畑も原野も周りに多かったのだ。森もわずかにあったのだが、積極的に入って遊んだことはない。

記憶の中の小さな森は、ごちゃごちゃと草木が茂(c)っていて見通し(四)が悪く、いろいろなゴミが散乱していた。薄暗くて、こわい(c)、そして何だか汚らしい。それが当時の私の森のイメージを支配している。一九七〇年ころの記憶だ。

それらの森は、私が大人になるまでにすべて宅地(B)に変わった。ある日、すっかり更地になったり、すでに家が建ち始めたのを見て、どちらかと言えば安堵した気がする。通るのに気味悪い場所がなくなったからだ。

こんなふう(c)に森に対する親近感をほとんどもたずに成長したのに、「自然が好きだ」という大人になってはいた。こうがいへ出かけてみどりの山々を眺めるのはとても気持ちよかった。わけ入って中へ入り込もうとさえしなければ、「みるだけ」の森は清々しくよいものだった。

《浜田久美子 『森の力―育む、癒す、地域をつくる』岩波新書 二〇〇八年》

小論文問題

次のテーマからどちらか一つを選んで、あなたの考えを三〇〇字から四〇〇字程度で書きなさい。また、選んだテーマの番号を原稿用紙表題欄に書きなさい。

- 1 二酸化炭素の削減対策について
- 2 新型インフルエンザの世界的な感染について

受験番号
.....

志望学科
学科
氏名

問一

文中の傍線部(ア)～(オ)を、日本語で使用される漢字にしなさい。

- (ア) にちじょうてき ()
- (イ) こわい ()
- (ウ) ころ ()
- (エ) こうがい ()
- (オ) みどり ()

問二

文中の傍線部(一)～(五)の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (一) 関わる ()
- (二) 無縁 ()
- (三) 茂って ()
- (四) 見通し ()
- (五) 気味 ()

問三

文中の傍線部(A)「年配の方」と、(B)「すっかり更地になった」とはどのような意味か、説明しなさい。

- (A) 年配の方
- (B) すっかり更地になった

※大学記入欄